

# The Changing Face of Japanese Language Education: Application of ICT to Material Design and Teaching Methodology

Yoshiko Kawamura  
Tokyo International University

## Abstract

This paper reports on the development of Japanese language teaching material based on applications of ICT, and a teaching methodology that leads to self-directed learning. However, unlike material designed for a general commercial market, the material and methodology reported on here are aimed specifically at foreign care workers. This could be referred to as JSP, Japanese for Specific Purposes. Foreign care workers who come to Japan as part of EPA (economic partnership agreement) are tasked with successful completion of the national certificate examination within four years after they begin working at Japanese care facilities. In order to meet this requirement, experts in the field point to the need for specifically designed study material and an effective method of teaching. The Web based *Tutor Dictionary* has recently incorporated a multilingual mini-dictionary containing lexical items specific to the care worker industry as part of this need. The new tool was introduced on the Web in 2010 (<http://chuta.jp/>). As the next step, the developers of *Reading Tutor* have undertaken efforts to build a series of educational material specifically for care workers studying for the national examination.

This paper will explain the nature of the Web based tools used to develop this material and the steps taken to develop appropriate material for care workers. This explanation will be followed by suggestions for changes in teaching methodology to complement the use of material. It is the sincere wish of the developers that both the Web based tools and teaching methodology introduced here will positively affect Japanese language education in general, and more specifically, Japanese for specific purpose education.

**Keywords:** materials development 教材開発, lexical frequency 出現頻度,  
rate of lexical coverage カバー率, education for specific purposes 専門教育,  
care worker national certificate examination 介護福祉士国家試験

---

\* Corresponding author e-mail: kawamura@tiu.ac.jp

## 日本語教育における ICT の活用と指導法の変容

川村よし子

東京国際大学言語コミュニケーション学部

日本語教育、教育工学

## 1. はじめに

本稿では、日本語教育におけるICT(Information and Communication Technology)の活用事例として、外国人介護福祉士候補者のための教材作成とそれを用いた学習方法について報告するとともに、ICTを活用した教材開発の方法と指導法の変容について考える。

経済連携協定(EPA:Economic Partnership Agreement)で来日した外国人介護福祉士候補者は、各施設で仕事をしながら、国家試験のための勉強もし、日本人と同じ国家試験を受けて合格しなければならないという状況にあり、彼らのための日本語教材の整備は不可欠である。チュウ太プロジェクトチームでは、こうした候補者の日本語学習を支援するために、介護に必要な語彙を含んだミニ辞書を作成し、『チュウ太のWeb辞書』(川村2008)に組み入れ、2010年からネット上に公開(<http://chuta.jp/>)してきた。今回、新たに国家試験に焦点をあてた日本語教材の開発を進めている。教材作成にあたっては、1999年からWeb上で公開(<http://language.tiu.ac.jp/>)している『リーディング・チュウ太』の語彙チェッカーに加えて、新しいツールも開発し活用した。本稿では、この教材開発について、日本語教育におけるICT活用事例として詳しく紹介する。さらに、この教材を利用した学習の進め方を提案する。最終節では、本稿で扱った一連の教材開発の流れを他の分野の日本語教育に応用するには、何をどのような手順で

行っていくかについて述べるとともに、ICT時代の日本語教育における指導方法のありかたについて提言を行う。

## 2. 介護福祉士候補者の現状と教材開発の必要性

経済連携協定によって来日した外国人介護福祉士候補者(以下、候補者)は、施設等の介護現場で働きながら、4年以内に介護福祉士国家試験(以下「国家試験」)合格を目指さなければならない。ところが、候補者の中には、来日時の日本語能力が初級修了程度という候補者もいる。それに対して、国家試験で使われている語彙には専門用語も多く、「仰臥位」「嚥下」「清拭」「褥瘡」「拘縮」等、一般の日本人がほとんど使わない語も多く含まれている。一方、奥島(2010)がインドネシア人候補者第1陣の受入れ施設を対象に行った調査では、候補者の日本語学習が自習と日本語教室という形で行われていると回答した施設が最も多い。また、厚生労働省(2010)が37の候補者受入れ施設を対象に行った調査では、「候補者に対して、どのような日本語学習を行わせていますか。(複数回答可)」という質問に対して、日本語学校:3(8.1%)、日本語の専門家:20(54.1%)、ボランティアによる個人指導:12(32.4%)、レポートや日記:27(73.0%)、日本語の問題集:24(64.9%)、e-learning:10(27.0%)、不明:4(10.8%)という回答であり、候補者の日本語学習環境は施設によ

って差があり、学習方法も大きく異なっていることがわかる。また、自律学習に近い形で日本語学習を進めている候補者も少なくない。一方、候補者に対して行った質問「現在、あなたが課題と感じていることをお聞かせ下さい。(複数回答可)」への回答(回答者総数73名)のうち、上位のものをあげると、「介護福祉士の国家試験に向けた学習」58(79.5%)、「日本語の学習」44(60.3%)、「利用者とのコミュニケーション」44(60.3%)、「日本人の介護スタッフとのコミュニケーション」41(56.2%)であり、国家試験の学習が「課題」の最上位にあがり、次いで日本語学習、コミュニケーションとなっている。これらを総合して考えると、候補者の日本語力にあった国家試験の学習のための教材の整備と継続的な自律学習を可能にする指導法の確立が、まさに急務であると言える。

### 3. 先行研究

国家試験の問題を解くには、介護福祉に関する知識が必要なことは言うまでもないが、候補者のように、日本語の非母語話者の場合、問題文そのものを理解できることが何よりも重要となる。川村(2010)において、文の難易度調査をおこなった結果、文の難易度には文中の単語の難易度が最も強い影響を及ぼすことが明らかになった。候補者のための日本語教育を考えた時、まず、国家試験において、どのような単語が使われているかに関する調査が不可欠である。

そこで、国家試験で使われている単語の基礎調査を行った(川村・野村2010)。Web上で入手可能な国家試験の第3回から第18回まで計16回分の全問題を対象にして語彙チェッカー(川村2009)を用いて単語を切り出した結果、国家試験には、異なり語数で7,892語の単語が用いられていることが分かった。「(旧)日本語能力試験出題基準」(以下「出題基準」)をもとに単語のレベルを判定したところ、延べ語数で約5割が4級の単語であり、1

級の語彙は1割にも満たないことがわかった。一方、級外の語は異なり語数で3,799語(48.2%)あり、国家試験で用いられている語の約半分の割合を占めていることが明らかになった。そこで、この国家試験の分析結果と介護記録の分析結果(野村・川村2009)をもとに、候補者のための語彙リストを作成し、これに出題基準の語を加えてミニ辞書を作ることにした。ミニ辞書は1語1訳(必要があれば、複数の訳語の併記も可)の形で候補者の母語であるインドネシア語とフィリピン語と英語版を作成した。さらに、このミニ辞書を『チュウ太のweb辞書』(川村 2008)に組み入れ、世界のどこからでも利用可能な候補者のための辞書ツールを完成させた。このミニ辞書の国家試験に対するカバー率を調査したところ、カバー率は98%であった。また、野村・川村(2010)で、実際に候補者を対象にミニ辞書を組み込んだ『チュウ太のweb辞書』の評価実験を行ったところ、国家試験の問題理解に役立つツールであることが明らかになった。

候補者用の教材開発の背景には、以上のような一連の研究があった。

### 4. 国家試験のための学習語彙の選定と「かいごたん808」

候補者用の教材作成にあたっては、国家試験のための学習語彙の選定が不可欠だが、その際、初級修了程度の日本語学習者を想定する必要がある。そのため、国家試験の第3回から第18回まで計16回分の全問題を対象にして、再調査を行った(野村・川村2011)。

限られた時間の中で最大の成果を上げるには、国家試験で用いられている語を効率よく学ぶ必要がある。国家試験で用いられていた語(異なり語数で7,892語)のうち、高頻度語として、上記16回分の国家試験に平均1回以上使われていた語(全データ中に16回以上現れていた語)を抽出したところ、1,146語であった。また、これらの語の全

試験問題に対するカバー率は、87.7%であり、これに、3、4級の語で16回未満の語を加えれば、90%を十分超えるカバー率になることが判明した。さら

に、語彙チェッカーを用いて出題基準と照合した結果、級別の比率は表1のとおりであった。

表-1 高頻度語(16回以上)の全試験問題に対するカバー率

|       | 級外    | 1級     | 2級     | 3級     | 4級     | 機能語    | 合計      |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 異なり語数 | 214   | 183    | 411    | 116    | 158    | 64     | 1,146   |
| 延べ語数  | 9,211 | 13,258 | 31,392 | 13,821 | 21,969 | 67,483 | 157,134 |
| カバー率  | 5.1%  | 7.4%   | 17.5%  | 7.7%   | 12.3%  | 37.6%  | 87.7%   |

表1の中にある「機能語」とは助詞・助動詞・接続詞のことである。機能語を除けば、高頻度語には、延べ語数でも異なり語数でも2級の語が多いことがわかる。また級外語も214語含まれ、延べ語数で9,211語、カバー率で5.1%を占めていた。16回以上現れた語1,146語から初級語彙(出題基準の3

級と4級)を除いた単語は808語であり、これをもとに国家試験のための単語リストを作成し、「かいごたん808」と名付けた。

「かいごたん808」(以下「808」)は、図1のような形にした。

|    | 見出し語     | 読み         | 品詞 | やさしい日本語                     | 英語                            | インドネシア語                        | メモ |
|----|----------|------------|----|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----|
| □□ | 愛        | あい         | 名詞 | ひとやものを大切に思う気持ち              | love/affection                | cinta/mencintai                |    |
| □□ | 相手       | あいて        | 名詞 | なにを一緒にする人                   | partner/opponent              | pasangan/lawan                 |    |
| □□ | 明らか      | あきらか       | な形 | はっきりしている                    | clear                         | terang                         |    |
| □□ | 預かる//預ける | あずかる//あずける | 動詞 | たの頼まれて管理や世話をする//管理や世話をしてもらう | to keep//to leave sth with sb | dititipi (titipan)//menitipkan |    |
| □□ | アセスメント   | あせすめんと     | 名詞 | なにを始める前に調べること               | assessment                    | penilaian                      |    |
| □□ | 与える      | あたえる       | 動詞 | あげる                         | to give                       | memberikan                     |    |
| □□ | ～当たり     | あたり        | 接尾 | ～にどれだけあるか                   | per                           | per/setiap                     |    |
| □□ | 悪化(する)   | あつか        | 動詞 | わる悪くなる(こと)                  | degeneration/getting worse    | memburuk                       |    |

図1 「かいごたん808」(一部)

各見出し語には、読み方、品詞、やさしい日本語での書き換え、英語とインドネシア語の訳が付いている。やさしい日本語とは、可能な限り初級レベルの語で書き直したものであり、この欄の漢字にはすべてルビを振った。英語とインドネシア語訳には、『チュウ太のWeb辞書』の情報を活用した。このリストによって、各単語について、やさしい日本語で意味を確認することができると同時に、母語で意味の再確認もできる。リストには、チェックボックスやメモを書く欄を作り、候補者が学習を進めやすいような工夫をした。

こうして語彙リストは完成したが、候補者が初級修了程度の日本語力であった場合、この808語を一度に覚えるのは容易ではない。特に候補者のように非漢字圏の出身者にとって、このリストのように漢字の単語が多く含まれている場合は困難度が高い。そこで、「かいごたん808」の語彙の習得をより効率的に行うことができるように、漢字に焦点をあてた語彙習得のための副教材も準備した。

## 5. 漢字語彙の学習のための副教材「かいご漢字」

漢字に焦点をあてた語彙習得のための副教材は、図2のような形にして、「かいご漢字」と名付けた。

|                          | 漢字・単語  | 読み      | 品詞 | やさしい日本語                 | 英語                                  | インドネシア語              | メモ |
|--------------------------|--------|---------|----|-------------------------|-------------------------------------|----------------------|----|
| <input type="checkbox"/> | 定      | さだめる・テイ | 動詞 | き決める                    | to decide                           | dapat menetapkan     |    |
| <input type="checkbox"/> | 定める    | さだめる    | 動詞 | き決める                    | to decide/to appoint                | dapat menetapkan     |    |
| <input type="checkbox"/> | 定期     | ていき     | 名詞 | き決まった期間                 | regular                             | periodik             |    |
| <input type="checkbox"/> | 定年     | ていねん    | 名詞 | かいしゃや会社などをやめることになっている年齢 | retiring age                        | usia pensiun         |    |
| <input type="checkbox"/> | 指定(する) | してい     | 動詞 | もの、ばいばい物や場所をそれと決める(こと)  | appointment/to appoint              | penunjukan           |    |
| <input type="checkbox"/> | 設定(する) | せってい    | 動詞 | き決める(こと)                | setup/to set up                     | penetapan/menetapkan |    |
| <input type="checkbox"/> | 測定(する) | そくてい    | 動詞 | はか測る(こと)                | measurement/to measure              | ketetapan            |    |
| <input type="checkbox"/> | 特定(する) | とくてい    | 動詞 | それだと決める(こと)             | identification/specific/to identify | spesifik             |    |

図2 「かいご漢字」(一部)

「かいご漢字」は、「808」の見出し語に使われている漢字に着目し、頻度順に並べ、その下にその漢字を含む見出し語を並べたものである。一番使われていた漢字は、「定」で15回、次に「人」(13回)、「体」(12回)と続いている。「かいご漢字」でも、やさしい日本語、英訳、インドネシア語訳を添え、候補者が漢字の意味に着目しやすいうように配慮した。見出し語の並べ方は、単漢字、2字熟語、3字熟語という順にした。さらに、漢字の成り立ちに着目させ、意味の類推能力を高めることを目指して、漢字にも品詞を明示するとともに、当該漢字が語頭のもの、語末のもの、その他の順に配列した。

漢字にも品詞を明示し、その漢字が語頭にあるか語末にあるかに配慮した理由は、次のとおりである。

例えば、「定」のような動詞性の漢字の場合、「定期」「定年」のように、「定」が語頭に置かれた場合は、その動詞の目的語(「何を」定めるか)が後ろに来ている。それに対して「定」が後ろにある場合は、「指定」「設定」「測定」「特定」のように、その動詞の修飾語(「どう」定めるか)が前に来ている。また、「人」のような名詞性の漢字の場合には、「人生」「人工」のように「人」が語頭にあるときは、後ろの名詞を修飾して「人の～」という意味になる。語末であれば、「個人」「老人」など、前の語に修飾されて「～の人」という意味になる。この副教材には、以上のような漢字熟語の仕組みを説明したものが添えられている。こうした漢字熟語の基礎を理解することによって、「808」の語彙の習得は容易になる。また、このような規則を知ることによって、熟語の意味を類推する力も身につく、国家試験の問題を読み解く力にも結び付くものと思われる。

なお、世界のどこからでも入手できるようにとの配慮から、「かいごたん808」と「かいご漢字」は『チュウ太のWeb辞書』のサイト(<http://chuta.jp/Archive/>)からダウンロードして利用可能なものにした。

## 6. 学習教材作成の手順

ここでは、静岡県候補者に対する支援事業の一環として、『介護福祉士新カリキュラム学習ワークブック』(介護福祉士受験ワークブック編集委員会2010)をもとに作成した学習教材(川村ほか2011a、2011b)について報告する。

### 6.1 教材作成の基本方針

候補者のための学習教材の作成においては、候補者にわかりやすいものにするために、次のような基本方針をたてた。

- 使用語彙を制限し、可能な限り、初級の語彙と「808」の範囲の語で書く
- 範囲外の語が重要語句のため書き換ええないほうがよいときには脚注の形で説明する
- 日本の文化や制度に関する語にも脚注を入れる
- 脚注の説明も初級語彙と「808」の範囲の語で書く
- 文はできるだけ短くし、必要があれば箇条書きも用いる

候補者の日本語レベルからみると、やさしい単語だけをを使うほうがよさそうに思えるが、この教材が国家試験のための学習教材であることを考えると、試験での出現頻度が高い「808」の語は書き換ええないほうがよいと判断し、このような基本方針となった。

### 6.2 「kaigoチェッカー」の開発

上記の方針に従って、複数の編集者が、共同で、効率よく、編集作業を行うには、現在作成中の教材に含まれているそれぞれの単語が、初級語彙と「808」の範囲内であるかどうかを、必要に応じて、即時に、判定できるツールが必要となる。そこで、「語彙チェッカー」(川村2009)をもとに「kaigoチェッカー」を開発し、Web上で利用可能な(<http://basil.is.konan-u.ac.jp/chuta/level/>) ツールにした。

図3が、「kaigoiチェッカー」の入力画面である。画面中央のテキストボックスに文章を入れ、**kaigoi**のボタンを押す。

「kaigoiチェッカー」は、入力された文章を形態素解析システムMeCab(工藤2006)によって単語に区切り、次の基準で区分けしたレベル別単語リストと照合して、各単語のレベルを色分けして表示するツールである。

- 黒 : 初級語彙(旧日本語能力試験3級と4級)と機能語
- 緑 : 「808」に含まれる単語
- 青 : 旧日本語能力試験出題基準の2級の単語
- 赤 : 上記以外のすべての語

**チュウ太のレベルチェッカー**

入力した文章を単語ごとにレベル分け・色分け・カウントします。  
↓文章を入力して下さい。

freq
fami
mIDF
yIDF
freq6
goi
kaigoi
reset



図3 「kaigoiチェッカー」の入力画面

各編集者は、このツールを利用して、作成中の教材が使用可能語彙の範囲内で書かれているかどうかを適宜確認しながら教材の作成をすすめる。また上記方針に従い、文はできるだけ複文を避け一文を短くわかりやすいものにし、適宜箇条書きも用いるように配慮した。

### 6.3 学習教材の構成

学習教材の各課は、次のような構成になっている。

#### 重要項目

教材の主要な部分であり、説明文は総ルビの形にしてある。また、試験のためのキーワードは、赤字で示している。キーワード等で、初級語彙および「808」の範囲外の単語を用いた場合に関しては、注で解説を加える。この解説も、初級語彙と「808」の単語の範囲内で書くことを原則にしている。

図4では、「書面」「説明」「同意」が赤字(紙面の都合上、色を示すことはできないがゴシック体になっている)である。また、「808」の単語はボードルに示してある。図では、「ケアプラン」「介護」「サービス」「流れ」等々がそれに該当するが、「808」の単語がいかに多用されているかがわかる。さらに、過去の試験で出題された項目については、解説欄に☆印で過去の出題回数を示している(☆は1回、☆☆は2回、☆☆☆は3回以上)。

**46 ケアプラン** (介護サービス計画) は、次の流れで作られる。

①利用者や家族の希望を聞き、その計画でよいかどうか**確認**する

②作った計画について、サービス担当者会議 (ケアカンファレンス) で専門家が話し合う

介護保険制度では、すべてのサービス機関が、利用者や家族に対して書面<sup>48</sup>で内容と手続きについて説明し、同意<sup>49</sup>を得なければならない。

**用語解説**

46 ☆☆☆

48 書面：説明などを紙に書いたもの

49 同意：相手の意見について、「私もそう思う」「そうしてもいい」と言うこと

図4 「重要項目」のページ(一部)

## 一問一答

キーワードになる重要語句を覚えたかどうかを確認する形式の問題である。国家試験と同レベルの文を左ページに置き、国家試験で使われる問題文のレベルがわかるようにした。右ページには、初級語彙と「808」の範囲内の語で書かれたやさしい日本語の問題文と答えを置き、図5のように左右見開きの形にした。

右ページの問題文と答えの漢字には、すべてルビがふってある。また、答えの後ろの番号は重要項目の番号である。答えがわからなかった時や間違った時には、重要項目に戻って学習できるように配慮してある。

|                                                          | 解答欄 |                                                                                                                               | 解答                                |
|----------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 少子社会と高齢社会を伴った社会を何というか。                                 |     | 1 少子社会と高齢社会を伴った社会を何というか。                                                                                                      | 少子高齢社会                            |
| 2 介護問題という国民に共通するリスクを社会全体で分担するシステムを何というか。                 |     | 2 介護問題という国民に共通するリスクを社会全体で共有するシステムを何というか。                                                                                      | 介護の社会化                            |
| 3 高齢者介護の基本理念として、「自立支援」と他に何が重要か。                          |     | 3 高齢者介護の基本理念は、「自立支援」の他に何が重要か。                                                                                                 | 尊厳の保持                             |
| 4 社会福祉士及び介護福祉士法改正により介護福祉士の定義規定の見直しで介護に関する表現がどのように変更されたか。 |     | 4 「社会福祉士及び介護福祉士法」改正によって介護福祉士の定義規定が見なおされた。介護に関する表現がどのように変わったか。                                                                 | 心身の状況に応じた介護<br>(相手の心や体の様子にあわせた介護) |
| 5 医師などの資格は名称独占であると同時に業務独占であるのに対し、介護福祉士の業務の特徴は何か。         |     | 5 医師などの資格は名称独占(医師の資格を持つていなければ、医師という資格の名前を使って業務を行うことができないこと)であると同時に業務独占(医師の資格を持っていないならば、医師の業務を行うことができない)である。では、介護福祉士の業務の特徴は何か。 | 名称独占                              |

図5 「一問一答」の左右のページ(一部)

## 五肢択一問題

国家試験の形に近い形式の問題である。一問一答と同様、見開きにして、国家試験と同じ形式

で同レベルの問題文にも接することができるように配慮した。

- 2** 介護過程に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。
- 1 介護計画の内容について、利用者と家族に対して内容を口頭で伝え、了解を得た。
  - 2 目標には長期目標と短期目標があるが、いずれも期限を明確に示す必要はない。
  - 3 ケアの標準化とは、組織が定める標準的なケアの方法・手順をマニュアル化し、業務手順として統一することであり、ケアの個別化とは対立する考え方である。
  - 4 介護計画は、5W1Hを踏まえて具体的に記述する。
  - 5 目標の達成度や今後の方針については、評価の段階で検討するため、実施の段階では状況の把握をしなくてもよい。

図6 「五肢択一問題」の左ページ(一部)

- 2** 介護過程について書いてある次の文章の中で、正しいものを一つ選ばさい。
- 1 介護計画の内容について、利用者とその家族に対して内容を話して説明し、了解してもらった。
  - 2 目標には長期目標と短期目標があるが、どちらもいつまでに目標を達成するかは決めなくてもよい。
  - 3 ケアの標準化とは、組織が決めた基準になるケアの方法・流れについて規則化し、業務をだれがやっても同じようにすることである。ケアの標準化はケアの個別化とは反対の考え方である。
  - 4 介護計画は、5W1H を考えて、具体的に書く。
  - 5 目標の達成度や今後どのようにしていくかについては、評価する時になったら考えればよいので、実施する時には状況をよく理解していなくてもよい。

図7 「五肢択一問題」の右ページ(一部)

図6のように、左ページの問題文にはルビはなく、国家試験の問題と同じレベルの日本語で書いてある。それに対して、図7のように右ページの問題文は、初級語彙と「808」の範囲内のやさしい日本

語で書かれ、ルビもふってある。右ページには、さらに図8のような解説も添えた。

- 1 × 介護保険制度ではすべてのサービス機関は利用者やその家族には紙に書いて内容・手続きの説明をする。そして、それについて同意するかどうかの確認をしなければならない。 (46)
- 2 × どちらも、目標をいつまでに達成するかを決めておかなければならない。 (25)
- 3 × ケアの個別化は、ケアの基本的な方法に加えて、利用者それぞれを尊重したケアを行うことである。ケアの個別化で、その人にあったケアができるようになることを目標とする。 (28)
- 4 ○ わかりやすい文章を書くためには、5W1H を頭の中に入れておくことが大切である。 (30)
- 5 × 実施する時は、介護計画が良かったかどうかを評価する大切な時である。いつも利用者の状況をよく見て理解しながら支援することが大切である。 (3)

 解答 4

図8 「五肢択一問題」の解説(一部)

解説も初級語彙と「808」の範囲内のやさしい日本語で書くとともに、選択肢の一つひとつについて、正しいか(○)誤りか(×)を示した。さらに、各

選択肢の内容を説明している重要項目の番号も示してある。

## 7. 学習教材の利用方法

この学習教材は自律学習も可能な形になっているが、日本語教師の指導が得られれば、より効率的な学習が可能になる。候補者には次のような形で学習を進めるように指導する。

### ① 「808」および「かいご漢字」による語彙学習

学習教材の利用に先立って、「808」の単語を学ぶ必要がある。「808」も「かいご漢字」も、上述した通り、Web上で公開しているため、世界のどこからでも自由にダウンロード可能である。語彙学習では、まず「808」の見出し語欄だけを見て、知っている語であれば、チェックボックスにチェックマーク☑を入れる。その後、やさしい日本語あるいは英語・インドネシア語訳を参照し、意味が理解できていたかどうかを確認する。知らなかった語や意味が理解できていなかった語は、その場で覚え、後日(できれば数日後に)再確認し、覚えていればマーク☑を入れる。知らない語が多かった場合には、「かいご漢字」等も活用する。可能な限り、「808」の単語は、見れば意味がわかる程度にまでしてから、②の学習に移る。

### ② 学習教材(ワークブック)による学習

学習教材の説明文は、上述したように、使用語彙が制限されている。また、文中の「808」の単語については、ボールド体になっているため、どの単語が「808」かがすぐにわかり、意味の再確認も可能である。赤字になっているキーワードに注意しながら、「重要項目」について一項目ずつ学習を進める。本文のすべての漢字にはルビが振られているので、辞書を引くこともできる。また、介護の専門用語まで入っている『チュウ太のWeb辞書』を活用することも可能である。

### ③ 学習の自己評価

「一問一答」と「五肢択一問題」では、自らの理解度を評価できる仕組みになっている。左ページの

国家試験レベルの問題文の意味がわからないときには、ルビ付きのやさしい日本語で書いてある右ページを参照する。また、「五肢択一問題」を解く際には、選択肢の一つひとつについて正しいか誤っているかを考えるようにする。右ページにはやさしい日本語の問題文に加えて、各選択肢の正誤とともに解説も載っている。解答できない場合、また間違っていた場合には、重要項目に戻って、復習する。

以上のように、教材は自律学習も可能な形になっているため、指導の時間が十分取れない場合でも、導入部分に十分な時間をかければ、後は適宜質問に答える形で授業を進めることもできる。一方、次節で述べるように、『チュウ太のWeb辞書』を利用すれば、学習教材の終了後、あるいは並行して、自律学習をさらに進めることが可能である。時間に余裕があれば、この『チュウ太のWeb辞書』を活用した学習方法を候補者と一緒に実際に試す等、自律学習を促す方向での指導をより積極的に行っていく必要がある。

## 8. 『チュウ太のWeb辞書』を活用した自律学習

Web上には、国家試験の過去問題を掲載しているサイトがいくつもある。候補者にとって便利なサイトは、『介護福祉士国家試験Navi』

(<http://www.kaigo-license.com/blog/>)である。『チュウ太のWeb辞書』のHelpにも、ここへのリンクがはられている。

このサイトでは、過去の問題が国家試験の科目別に検索できるだけでなく、「介護福祉士資格オンライン模擬試験」としてWeb上で試験問題にチャレンジできるページも公開されている。例えば、次の問題は「第22回介護福祉士国家試験問題抜粋」からのものである。

**第10問** 10368人中8563人正解 (正答率82.5%)

老化が及ぼす心理的影響に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 経験や体験に基づく流動性知能が高まる。
2. 喪失体験を引き起こす原因の一つに定年退職がある。
3. 老いを自覚することにより、他方への積極的な交流が増える。
4. 感覚記憶から送られた情報は、半永久的に保持される。
5. 老年期には、自我同一性の確立が顕著に現れる。

----- OK -----

図9 「第22回介護福祉士国家試験問題抜粋」(一部)

問題番号の右には、解答者数、正解者数、正答率が表示されている。選択肢のチェックボックスにチェックして ☐ OK ボタンを押すと、その場で正誤がわかる仕組みである。解答に要した時間も表示される。実際の試験では、短時間で多くの問題を解かないといけないので、この解答時間の表示は学習の目安になる。また、この模擬試験では、自分が選んだ解答の正誤はわかるが、正解そのも

のは表示されない。しかも、設問や選択肢の提示順は毎回異なるため、繰り返しチャレンジすることで、実力を伸ばすことができる。

問題文そのものの意味が十分にわからなかった場合には、問題文を、『チュウ太のWeb辞書』にコピー＆ペーストすれば、文中のほぼすべての単語の意味がわかる。図10は、『チュウ太のWeb辞書』の入力画面である。

The Reading Tutor Web Dictionary  
チュウ太のweb辞書 Ver. 1.4.4.4506

Input a Japanese text and click the "Dictionary" button.

ここに日本語の文章を入れてDictionaryボタンを押してください。

Dictionary

**Languages**

|                                    |                                    |                                             |                                              |                                                |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> Arabic    | <input type="checkbox"/> Bulgarian | <input type="checkbox"/> Chinese-Simplified | <input type="checkbox"/> Chinese-Traditional | <input type="checkbox"/> Czech                 |
| <input type="checkbox"/> English   | <input type="checkbox"/> Finnish   | <input type="checkbox"/> French             | <input type="checkbox"/> German              | <input type="checkbox"/> Hungarian             |
| <input type="checkbox"/> Italian   | <input type="checkbox"/> Japanese  | <input type="checkbox"/> Korean             | <input type="checkbox"/> Kyrgyz              | <input type="checkbox"/> Malay                 |
| <input type="checkbox"/> Marathi   | <input type="checkbox"/> Nahuatl   | <input type="checkbox"/> Portuguese         | <input type="checkbox"/> Romanian            | <input type="checkbox"/> Russian               |
| <input type="checkbox"/> Slovenian | <input type="checkbox"/> Spanish   | <input type="checkbox"/> Tagalog            | <input type="checkbox"/> Thai                | <input type="checkbox"/> Turkish               |
|                                    |                                    |                                             |                                              | <input checked="" type="checkbox"/> Vietnamese |

**Options**

☐ Furigana   ☐ Hide idiom   ☐ Hide example

Reset Settings   Save Settings

図10 『チュウ太のWeb辞書』の入力画面(一部)

画面上のテキストボックスに、読みたい文を入力(コピー&ペースト)する。辞書のデフォルト値は、ユーザーの使っているブラウザで指定している言語になっている。必要な言語を選び、チェックボックスをクリックする。図10では、インドネシア語が選択され

ているが、複数の言語の指定も可能である。テキストボックス下の「Dictionary」ボタンをクリックすると、入力された文章の辞書引きが自動で行われる。図11が、結果画面である。

| 入力された文章                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 単語一覧                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>単語に読みと意味がリンクされています。</p> <p>老化が及ぼす心理的影響に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経験や体験に基づく流動性知能が高まる。</li> <li>2. 喪失体験を引き起こす原因の一つに定年退職がある。</li> <li>3. 老いを自覚することにより、他方への積極的な交流が増える。</li> <li>4. 感覚記憶から送られた情報は、半永久的に保持される。</li> <li>5. 老年期には、自我同一性の確立が顕著に現れる。</li> </ol> | <p>id</p> <p>ろうか<br/><b>老化</b><br/>penuaan/ (～する) bertambah tua</p> <hr/> <p>およぼす<br/><b>及ぼす</b> ** [ 及す ]<br/>membawa</p> <hr/> <p>しんり<br/><b>心理</b> **<br/>jiwa</p> <hr/> <p>てき<br/><b>的</b> **<br/>secara</p> <hr/> <p>えいぎょう<br/><b>影響</b> **</p> |
| <p><b>あなたの単語リスト</b></p> <p>調べた単語の一覧です。</p> <p>ここにあなたの調べた単語が表示されます。</p> <p>© Chuta Dictionary Project</p>                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                      |

図11 『チュウ太のWeb辞書』の結果画面(模擬試験 第10問)

入力した本文は、上記の第10問である。画面左の本文において青字(ここでは灰色)で表示されている単語はすべて右の辞書にリンクされている。上述した通り、ミニ辞書には介護の専門用語も含まれているため、ほぼすべて単語の辞書情報が表示される。例えば、問題10で表示できない語は「古い」と「半永久」のみである。この2語も「老いる」「永久」を知っていれば類推可能な単語である。本文で意味がわからなかった語をクリックすると、右の辞書欄に単語の読みとインドネシア語訳が表示される。また、同時に画面左下の「あなたの単語リスト」にその語が追加される。リストの単語も辞書とリンクされているので、学習した単語について復習することも可能な仕組みになっている。さらに、入力画面の下でOptionsでFuriganaのチェックボックスをクリックすると、結果画面の本文にルビが振られる。こうして、語彙の学習を一通り終えた後、再度模擬試験に挑戦する。

以上のように、ICTを活用することで、自律学習を積極的に進めていくことが可能な環境が整いつつある。教師が指導にあたる際には、こうしたことを配慮に入れたうえで、学習者一人ひとりの自律学習につながる指導を行っていく必要がある。

## 9. ICTの活用と教師の指導法の変容

これまで、ICTを活用した介護福祉士候補者のための教材開発とそれを用いた指導法について詳しく述べてきたが、この方法は、介護とは全く異なる専門分野の日本語教育にも、また、一般の日本語教育にも、応用可能なものである。ICTをどのように利用するかによって、教材開発の方法も、日本語教育における指導方法のありかたも大きく変化してくる。ICTを活用した教材開発と指導法の変容について、以下に述べることにする。

## 9.1 ICTを活用した教材開発

教材開発において最も重要な点は、学習者のレベルと、教育目標である。読む、書く、聴く、話す、の4技能は、技能ごとに教育目標も教育方法も異なる。もちろん、各技能はそれぞれ独立したものではなく相互に影響し合うものではあるが、ここでは、読解に限定して、考えることにする。

読解は、文章を通した読み手と書き手との間のコミュニケーションであり、本来は個人的な作業である。そのため、読解の授業を行うときの教師の役割は、学習者がどこまで理解できているかを確認し、理解が不十分だと思われるときに支援するという形が多い。語彙に関しては、授業の前に語彙リストが配布されることもあれば、学習者一人ひとりが予習の形であらかじめ単語の意味を調べてくこともある。いずれにせよ、文章の理解のためには、文に含まれる個々の単語の意味がわかっていることが大前提になる。だが、ここで重要なのは、その文章を読むこと、また、その文章に含まれている個々の単語の意味を知ることが、学習者にとって、どのような意味があるかである。

教材開発にあたっては、まず、教育目標として、予定されている期間内に、何のためにどのような種類の文章をどのレベルまで読めるようにすることをめざすのかをあらかじめ決定しておく必要がある。それによって、教育目標にしたがって、教材開発を次のように進めていくことが可能になる。

### 9.1.1 基礎資料の収集

教育内容にあわせて、その分野の基礎資料をできるだけ多く収集する。新聞を読めるようになることが目標であれば新聞記事、専門分野の教育であればその分野の教科書や参考書等が基礎資料となる。基礎資料は、可能であれば、電子情報の形で提供されているものが望ましい。それが難しい場合には、集めた資料をスキャナで取り込み、OCR(Optical Character Reader)ソフトで読み取ることで、比較的容易に電子化が可能で

ある。読み取りの精度はスキャナとOCRの精度に依存するが、一般の印刷物であれば、98%以上の精度で読み取れるものも入手できるようになってきた。OCRで読み取ったものについては、本文と照合し必要な修正作業を行う。

### 9.1.2 語彙リストの作成

電子情報化された資料を「語彙チェッカー」にかけ、単語リストを作成する。語彙チェッカーでは旧日本語能力試験の出題基準にあわせて級ごとにリストが作成される。単語の右の数字は出現回数を表している。リストの単語のうち、学習目標にあわせて必要なレベルの部分を取り出し、Excel等の表計算ソフトに取り込むことによって、頻度ごとに並べ替えることが可能になる。学習者のレベルにあった単語リストの中から、出現頻度の高いものを「学習語彙」として選定することで、効率の良い語彙学習が可能になる。

### 9.1.3 教材の作成

教材作成は、資料の中から教材として利用可能なものを適宜組み合わせで行う。その際も、「語彙チェッカー」を使用する。元となる資料を「語彙チェッカー」にかけると、本文に含まれるすべての単語が、級ごとに色分けして表示される。例えば1級の単語は赤の細字、級外の単語は赤の太字で表示される。学習者のレベルにあわせて、必要レベル以上の単語で、「学習語彙」以外の単語を、やさしい単語に置き換えることによって、教育目標と学習者のレベルにあった教材が作成できる。また、作成した教材の配布方法に関しても、従来のように紙媒体ではなく、電子情報の形でWeb上に置く形にすれば、学習者が個々にダウンロードして『チュウ太のWeb辞書』を活用して予習することも可能になる。

### 9.1.4 漢字リストの作成

学習語彙リストの単語が多い場合には、「かいご漢字」の節で示したように、漢字に焦点をあてたリストを作成すると学習効率が上がる。「漢字チェッ

カー」(川村2009)を使えば、リスト中の漢字が級別に表示されるだけでなく、個々の漢字の頻度も明らかになる。頻度の高い漢字について、その漢字を含む単語をまとめる。Excelのフィルター機能を活用すればその漢字を含む単語を簡単に抽出できる。

以上のように、ICTは、読解教材の開発にもいろいろな形で活用可能なものであるが、その一方で、ICTによって、教育方法そのものも大きな変容を迫られている。

## 9.2 指導法の変容

インターネットが普及し、学習者も自由に日本語で書かれた情報を得られる時代になり、日本語教育も今まで以上に、学習者の自律学習に結びつくものである必要がでてきた。上述した教材開発もこうした自律学習支援を視野に入れたものであるが、ここではさらに、読解教育、語彙教育、漢字教育における指導法のありかたについて考えてみる。

### 9.2.1 速読と精読を併用した読解教育

膨大な量の情報の中から必要な情報を見つけるには、速読の力を伸ばす必要がある。一方、必要な情報が見つければ、今度はそれを正確に理解しなければならない。そのため、読解の授業でも速読と精読を組み合わせで行う必要性がこれまで以上に高まってきている。速読と精読では、別々の教材を選んでもいいが、同一教材を用いて、まず速読でできるだけ速く全体の意味を把握する訓練を行い、その後、重要な部分を抜き出して、あるいは全部を精読するという形で進めることも可能である。いずれにせよ、一文一文意味を確認しながら読むことも大切だが、意味がわからない単語があっても読み飛ばして、全体を理解する力を伸ばすためのトレーニングも不可欠である。前述したような形で学習者のレベルと学習目的に配慮して作成された教材も、こうした授業方法に適していると言える。

### 9.2.2 ことばの使い方に着目した語彙教育

一つひとつの単語には意味の広がりがあり、その単語の意味範囲は言語によって異なっている。そのことに気づかずに、文章を読み進めると誤解が生じる。ICT時代になったとはいえ、自動翻訳ツールの精度がまだ十分ではないのも、こうした問題があるからである。

読解指導、あるいは、語彙教育においては、慣用句や慣用表現はもちろんのこと、一つひとつのことばの使い方に着目させ、個々の単語の意味範囲の広さに気付かせることが求められている。単語の意味の広がりを理解させる方法の一つとして、辞書の活用がある。学習者一人一人が持っている辞書の種類が異なっている場合には、Web辞書を利用する。

のばす

#### 伸ばす\*\*

【動詞 自立】

1 長くする

【例文】

スカートが短かったので、5センチくらい伸ばした。

「髪は切らないの?」「うん伸ばしているんだ。」

よく見ようと思って首を伸ばした。

2 (曲がった物や縮んだ物を)まっすぐにする

【例文】

背筋を伸ばしてすわる。

正座で足が痛い。早く足を伸ばしたい。

手を伸ばしたり縮めたりしてください。

3 勢力や才能などの程度を高める

【例文】

音楽の才能を伸ばすために子供にピアノを習わせた。

子供の個性を伸ばす教育が大切だ。

4 [拡大する] 規模を拡大する

【例文】

あの会社は売り上げを伸ばしている。

市場における我が社のシェアを2倍に伸ばす。

図12 「伸ばす」の意味と例文

例えば、『チュウ太のWeb辞書』では意味ごとに例文がついているため、単語の意味の広がりを理解させるのに役立つ。

図12は、テキストボックスに「伸ばす」という単語を入力し、Japaneseを選択したときに表示された日本語辞書である。「伸ばす」には「長くする」「まっすぐにする」「(能力などを)高める」「(規模を)大きくする」といった意味がある。言語によっては、これら一つひとつの意味に相当する訳語が、異なっている場合がある。この辞書では意味ごとに例文が添えられているので、各例文を学習者の言語に翻訳してみることで、日本語の「伸ばす」の意味の広がりが見える。また、こうした作業を続けることによって、学習者が、単語の意味は文脈の中で決定されることに気づき、ことばの意味の広がりや理解するとともに、ことばの使い方にも目を向ける必要性を実感することができれば、学習そのもののあり方も変わってくるはずである。

### 9.2.3 意味の類推能力を高める漢字教育

日本語の漢字語彙は膨大である。特に非漢字圏学習者にとって、こうした漢字語彙の学習は困難を極める。また上級になればなるほど漢字語彙の比率は高まり、外来語を除けば、専門用語の大半が漢字熟語である。そこで、漢字の指導にあたっては、「かいご漢字」のところで述べたように、漢字熟語を構成している漢字から熟語の意味を類推させる指導が必要になる。特に、各漢字が動詞的な役割を持つ漢字か、名詞的な役割を持つ漢字かといった漢字の品詞に着目させるとともに、熟語の作られ方の規則を教えることが効果的である。詳しい指導法については、『チュウ太のWeb辞書』のアーカイブ(<http://chuta.jp/Archive/>)にある「『かいご漢字』を利用した単語の上手な覚え方」で紹介している。このような形で漢字熟語の基本的な成り立ちを知ることは、漢字語彙に対する類推力を高める。知らない単語に出会ったときに、まずその単語の意味を推測し、その後必要

があれば辞書等で調べるという学習方法を積み重ねていくことが語彙の習得にも役立つはずである。

以上、ICT時代における読解教育、語彙教育、漢字教育の指導法についてみてきた。これらの指導法は、いずれも自律学習につなげることでできる教育を目指している。日本語学習者の学習目的は多様化し、学習者のニーズとレベルに合った教育が求められている。インターネット経由で発信される日本語の情報は膨大な量であり、世界のどこからでもアクセス可能である。これを有効に活用することができれば、日本語教育の可能性は大きく広がるはずである。ICTを活用した教材開発と新しい形の指導法が、学習者の自律学習にむすびつき、日本語学習がより効果的に進められることを願っている。

### 参考文献

- 奥島美夏(2010)。「インドネシア人看護師・介護福祉士候補の学習実態～背景と課題～」『国際社会研究』創刊号, pp.295-342.
- 介護福祉士受験ワークブック編集委員会(2010).『介護福祉士新カリキュラム学習ワークブック』中央法規.
- 川村よし子(2008).『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書日本語学習者のための多言語版辞書ツールの開発とその評価』.
- 川村よし子(2009).『チュウ太の虎の巻ー日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版,東京.
- 川村よし子(2010)。「文章の難易度判定システム構築のための基礎調査」『ヨーロッパ日本語教育』Vol.15,171-178.
- 川村よし子・野村愛(2010)。「介護のためのミニ辞書を組み入れた辞書ツールの開発」『日本語教育方法研究会誌』Vol.17.No.1,22-23.

川村よし子・野村愛・名藤杏子・金庭久美子・斉木美紀・北村達也(2011a).「介護福祉士候補生のための国家試験に向けた教材の開発」『日本教育工学会第27回全国大会講演論文集』625-626.

川村よし子・野村愛・名藤杏子・金庭久美子・斉木美紀・武田亜寿香・西山陽子・橋本智・林奈実・藤田朋世・牧田弘子(2011b).『介護福祉士新カリキュラム学習ワークブック』第一分冊～第五分冊,静岡県.

工藤拓(2006).「MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer」(<http://mecab.sourceforge.net/>).

厚生労働省(2010).「インドネシア人介護福祉士候補者受入実態調査(結果)」厚生労働省.

野村愛・川村よし子(2009).「介護現場での実態調査を基にした介護語彙リスト作成 ―外国人介護士のための日本語学習支援を目指して―」『日本語教育学会大会予稿集』123-128.

野村愛・川村よし子(2010).「外国人介護士のための日本語読解学習支援システムの開発と評価」『日本語教育学会春季大会予稿集』294-299.

野村愛・川村よし子(2011).「介護福祉士候補者の自律学習支援のための語彙リスト作成」『日本語教育方法研究 会誌』Vol.18, No.1, 14-15.

#### 参考URL

『介護福祉士国家試験Navi』

(<http://www.kaigo-license.com/blog/>)

『チュウ太のWeb辞書』

(<http://chuta.jp/>)

『リーディング・チュウ太』

(<http://language.tiu.ac.jp/>)